

破れない的ができたよ（水鉄砲遊び）

岡山大学教育学部附属幼稚園（岡山県岡山市）

[5歳児]

<活動前の様子>

6月初旬から、いろいろな種類の水鉄砲で水の飛び方を試したり、的当てを楽しんだりしてきた。友達と一緒に的当てをもっと楽しんで欲しいという願いから、自分たちで工夫して作れるように、様々な材料を用意した。

幼児の言動

A児たち6～7人のグループが、針金ハンガーを広げて丸い枠を作り、障子紙を布ガムテープで貼って“一つ目小僧”の絵を描いた物を的にして水鉄砲で遊んでいた。

すぐに破れてしまう様子を見ていたB児は、障子紙を4枚重ねて針金ハンガーに張り、お化けの絵を描く。

B児「できたよ。これならなかなか破れないと思うよ」と嬉しそう。

A児たちのグループは、「よーし、破ってやる」「そんな簡単に破れるわ」「よし、頑張るぞ！」と口々に言いながら、早速バケツに水を汲んで、的から4m位離れた所から水鉄砲の水を的に当て始める。

A児たち「なかなか破れないよ」「おかしいな?」「何回もしとったら破れるよ。頑張ろう」と繰り返し水を飛ばす。

B児は、その様子を見ながら「絶対（破るのは）無理だよ。だって、4枚重ねとるからな」と微笑む。

A児たちは、「なあ、みんなで『せーの』で、しよう」と水鉄砲に水を入れる。「みんな、入れた?いい」「せーの」と一斉に的を狙って飛ばす。が、破れない。

A児たちは、的から1m位の所から、一斉に何度も繰り返し水を飛ばす。

B児「そんなことをしても破れないよ。最強じゃから」と嬉しそうに言う。



ついに二人の幼児がバケツに水を汲んできて、「せーの」と的に水を掛ける。「やったー、破れた」と喜ぶ。

B児「あーあ、そんなことしたら破れるわ。でも、水鉄砲では破れなかったよ。すごいじゃろ」

A児たちは、「すごく強かったね。なかなか破れなかった。バケツの水くらい強くないとダメじゃった。Bくん、すごいな」と言う。



B児は「また明日もっと強い的を作るからな」と言う。

他児は、「楽しみにしとくわ」「頼むよ」とB児に言う。

* 保育者の見取りと☆支援

* B児は、障子紙が1枚の的ではすぐに破れると思いき、4枚重ねると強くなるのではと考えた。

☆「障子紙を4枚重ねたんだね。強いかな。楽しみだね」とB児が自分なりに考えて作ったことを認め、考えた通りにいくか期待をもたせる。

☆A児たちに「Bくんが強そうなお化けの的を作ったよ。面白そうだよ」と知らせ、B児の的を破るという共通の目当てをもてるようにする。

☆「頑張ってるね」と意欲を高める。

* A児たちは、“強い的”と聞いて意欲をもった。

* 思ったより破れないので、A児たちは疑問に思いつながらも、さらに意欲が高まった。

* B児は、A児たちの言葉から期待感をもった。

☆B児には、「楽しみだね」と共感し、的当ての様子に期待をもって見られるようにする。

* なかなか的が破れないことに満足している。

* みんなで一斉にすると水の勢いが強くなり、的が破れると考えた。

☆「よく考えたね。みんなで一緒にすると破れるかもね」と気持ちを合わせてできるように言葉を掛ける。

* 水の勢いには、距離も関係すると気付いた。

* 自分が考えた的は破れないと自信をもつ。

* どのようにしても水鉄砲では勢いが足りず、バケツなら勢いが強いことに気付いた。

☆「いろいろな方法を考えて、最後まで諦めないで頑張ったね」と認め、友達と考えを出し合っただけで満足感をもてるようにする。

* バケツの水では破られたが、自分の的は強かったことを実感した。

* 時間をかけて挑戦したが破れずバケツの水でやっと破れたため、B児の的の強さを実感した。

☆「明日はどんな的ができるか楽しみだね」とみんなに言葉を掛け、明日に意欲をつなげる。

* 友達に認められ、的作りに意欲をもっている。

* 友達と目当てを共有し合う楽しさを感じている。

みどころ

友達が作った障子紙を使った的当てを見ていたB児は、「破れない丈夫な的を作りたい」と思い、障子紙を4枚重ねる工夫をしました。一方、A児たちは、B児の的を破る方法を考え試すうちに、水の勢い、的までの距離、水の量などに気付いていきます。子どもが自ら目当てをもって、「ああしてみよう」「こうしてみたら・・・」と工夫する過程で、また次の目当てが定まり、新たな工夫を生み出すきっかけになっていきます。